

## まちづくりの展開図



図 3-5 浦和美園駅周辺地区のまちづくりの展開図

## 2. 岩槻駅周辺地区

### 現 状

#### 歴史・文化を有する市街地の形成

- 本市の副都心である岩槻駅周辺地区は首都圏約30kmに位置し、城下町の歴史的資源や、全国的にも知名度が高い生産地としての人形づくりは江戸時代に始まる歴史があり、歴史・文化が息づくまちである。
- 岩槻駅舎及び岩槻駅東西自由通路の完成、観光案内所の開設、岩槻駅西口駅前広場や岩槻駅西口駅前通り線の開通により路線バスの発着変更など、まちの骨格部が大きく変わり日常の人の流れも変化してきている。
- 岩槻駅西口土地区画整理事業の進捗により、緩やかではあるが岩槻駅西口駅前広場等の整備以外でも街並みの形成の変化が見え始めている。
- 岩槻駅周辺地区に近接する七里駅周辺では、土地区画整理事業を進めており駅前広場の整備や駅舎改修の完成が待たれている。

#### 人口減少及び少子高齢化

- 岩槻駅周辺（2km圏内）の人口は、平成22年より減少傾向が続いている。また、高齢化率も増加傾向にある。
- 平成19年と平成29年の年齢別人口数の増減では若い年齢層が減少し、高齢層が増加しており、少子高齢化が進行していることがわかる。
- 岩槻区は「笑いを取り入れた健康体操」など高齢者の健康づくりに取り組んでいる。



図 3-6 岩槻駅周辺(2km)の人口及び高齢化率推移  
出典：町(丁)字別人口調査(埼玉県 HP)を基に作成(各年1月現在)

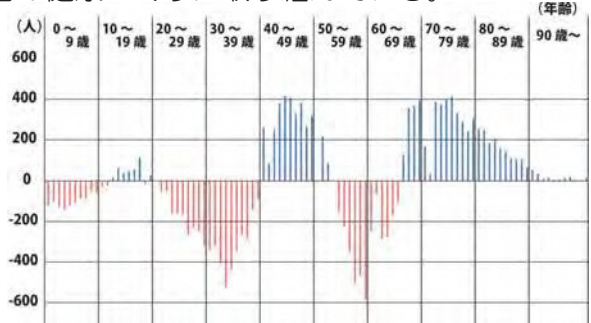


図 3-7 岩槻駅周辺(2km)の年齢別人口増減(H19年とH29年の比較)  
出典：町(丁)字別人口調査(埼玉県 HP)を基に作成(各年1月現在)

#### イベント開催

- 城下町岩槻をテーマにした城下町岩槻鷹狩り行列の開催や、人形をテーマにしたジャンボひな段の人形のまち岩槻まつり、人形供養祭、重陽の節句、人形のまち岩槻まちかど雛めぐり等が開催されている。また、新規イベントとして地元団体による愛宕神社の石段を利用した大雛段飾りや人日の節句なども開催されている。
- 東岩槻駅前でも地域コミュニティによる「東岩槻まつり」などが行われている。



図 3-8 岩槻愛宕神社  
大雛段飾り(3月)



図 3-9 人形のまち  
岩槻まつり(8月)



図 3-10 重陽の節句  
菊人形製作(10月)



図 3-11 城下町岩槻  
鷹狩り行列(11月)

#### 地域資源の活用

- 市街地には岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館や国登録有形文化財である岩槻郷土資料館<sup>※1</sup>、長谷川家見世蔵<sup>※2</sup>、東玉大正館<sup>※3</sup>などが点在している。
- 旧岩槻区役所敷地でさいたま市岩槻人形博物館や(仮称)にぎわい交流館いわつきの整備が進行し平成31年度末の開館を目指している。
- 人形製造業の事業所が減少する中、岩槻人形協同組合は都内の私立大学との連携のもと新商品の開発、販売等を行っている。

※1 岩槻郷土資料館(旧岩槻警察署本庁舎・附属庁舎及び演武場)：昭和5年に岩槻警察署として建築され、平成28年8月に指定された建造物。昭和57年に岩槻郷土資料館として開館された。アールデコ調の装飾が特徴。 ※2 長谷川家見世蔵：長谷川家見世蔵は通称であり、長谷川家住宅旧店蔵及び主屋外1棟が平成28年8月に指定された。明治初期の建造とみられる土蔵造で鮮やかな白漆喰塗の大壁等が特徴。 ※3 東玉大正館：平成19年12月に指定された建造物であり、大正時代後期に建築された煉瓦造2階建ての洋館建築。アーチ型の入口や左右対称の窓などが特徴。

**地域連携・協働**

- ・地域活動としてまちづくりに係るNPO団体をはじめ各種団体が多く、その活動の幅も広がっており、地域おこしのため、年間を通した新たなイベントの開催、国登録有形文化財などの歴史的資源の活用や、大学等との連携による取組が行われている。

**公共交通ネットワーク**

- ・岩槻駅西口駅前広場開設に伴いバス路線が再編成された。路線バスは、蓮田、浦和美園・東川口、越谷、大宮方面に運行されているが運行本数の減少した路線もある。コミュニティバスや乗合タクシーも運行されているが、地域公共交通として十分とは言えない状況であり、交通空白・不便地区等も多い。
- ・東武野田線に急行列車が運行され、大宮、岩槻駅間を約8分で結んでいる。

**課 題****将来を見据えた持続可能なまちづくり**

岩槻駅舎及び岩槻駅東西自由通路の完成や岩槻駅西口土地区画整理事業の進捗が、街並みの形成を促す契機となり、新旧の街並みが調和しつつある。今後は副都心として都市機能<sup>※1</sup>の強化に向けた取組が求められている。

古い街並みや、地域資源として活用されている施設は回遊性を高めるための一助となっているが、今後どの様に持続させていくかという課題もある。

東岩槻駅周辺は、東岩槻駅が昭和44年に設置され、昭和46年に土地区画整理事業が完了しており、当時から住み続けている住民が高齢となったことから、地域が連携・協働したまちづくりが求められている。

**地域コミュニティの形成**

地域コミュニティ形成のため、経済界、商店会、自治会組織に加え各種団体の活動も盛んであり、これらの人々の連携・協働を図るための情報共有化や支援などを行うことが求められている。

**定住者、来訪者に向けた新たな取組**

まちへの愛着の醸成やアクティブなシニアの育成、若い世代等に「住んでみたい」と感じさせる取組が求められている。一方、来訪者に対してのおもてなしの醸成が求められている。

**歴史・文化的資源を生かしたまちづくり**

歴史・文化的資源を最大限生かし、情報発信力を含めた観光機能の強化により、国内外から多くの来訪者で賑わうまちづくりを行う必要がある。

新たな拠点であるさいたま市岩槻人形博物館等の活用と連動し、既存地域資源への回遊性の向上などで地区全体の「魅力」、「質」の向上につなげていく取組が必要である。

**公共交通ネットワークの検討**

高齢者や子育て世代などの交通弱者に対する交通手段の確保が求められている。

路線バス等のサービス向上や、イベント開催時等に際し回遊性を向上させるための多様な移動手段の提供も必要である。

**「城下町や人形のまち岩槻」としての魅力発信**

交流人口及び定住人口の増加へとつなげていくために、岩槻の歴史や文化等の魅力発信を多様な手法で行っていく必要がある。

**市民団体等による新たな文化・イベントの創出**

既存イベントや新たなイベントの取組に対して、地域間及び行政と地域コミュニティの連携強化が必要であり、その効果としての「イベントの質の向上」が来訪者の満足度を向上させ、ひいては交流人口増加へとつなげることが必要である。

※1 都市機能：都市の生活を支える都市基盤や、居住、医療・福祉、教育・文化、商業等の施設（ハード面）及び、地域住民・行政・民間企業等による機能導入や保金を推進するマネジメント等（ソフト面）を含めた機能。

## まちづくりの方向性

城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、  
ふれあい・おもてなしのまちの創出

城下町や人形などの地域資源を生かし新たな付加価値の創出やおもてなしの心の醸成を目指す。また、これからのまちづくりの担い手を育成していく。

## 戦略

### 地域戦略

城下町や人形などの歴史・文化的資源等を最大限活用するとともに、都市機能の向上を図り、まちの魅力と活力を高める。

### 鉄道戦略

イベントの開催などにより、地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の交流を促進させるとともに、地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）の延伸実現に向けた検討を行う。

### 協働戦略

東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。

## まちの将来イメージ



図 3-12 岩槻駅周辺地区の将来イメージ

(出典) 地下鉄7号線延伸及び浦和美園～岩槻地域成長・発展に関する取組を基に作成

## まちづくりの展開図



図 3-13 岩槻駅周辺地区のまちづくりの展開図

### 3. 中間駅周辺地区、その他東部地域

#### 現 状

##### 地域資源の活用

- 中間駅周辺地区にある篠岡八幡大神社（笹久保）では子どもたちの健やかな成長を願い、国指定重要無形民俗文化財である古式土俵入りが奉納されている。
- 東部地域の中間部は緑地や農地が広がる市街化調整区域であり、東北自動車道で分断されているもの見沼田んぼを含め自然環境豊かな地域となっている。また、台地部には屋敷林や、斜面林、歴史的神社仏閣等が点在し、地域文化を発信している。
- 見沼田んぼについては、首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間として保全し、見沼田んぼの自然・歴史・文化を市民のかけがえのない環境資産として後世に伝える取組が行われている。
- 地域団体等により豊かな自然を活用し、農業体験や農村生活体験を通して、農業や自然、環境について総合的に学べる取組が行われている。



図 3-14 国指定 重要無形民俗文化財  
岩槻の古式土俵入り(出典:さいたま市 HP)



図 3-15 国指定史跡 真福寺貝塚  
(出典:さいたま市 HP)



図 3-16 見沼田んぼ



図 3-17 桜回廊

##### 大学と連携したイベントや講座等の開催

- 中間駅周辺地区に立地する目白大学さいたま岩槻キャンパスは、保健医療学部や看護学部があり、約1,300名の教職員及び学生が通っており、目白大学耳科学研究所クリニックも併設している。平成28年度には本市と包括連携協定を締結、また、さいたま商工会議所とも包括連携協定を締結し、看護現場のQOL向上を目的に、認定看護師教育課程において、医療機器開発コンテスト（SMAP事業<sup>※1</sup>）を埼玉県内初の事業として実施している。
- 同キャンパス内で学園祭と連携し、「いわつきマルシェ in 目白大学」の開催や地元NPO団体と学生の交流が「SPIS事業<sup>※2</sup>」を通して「岩槻やまぶきまつり」への参加など地域交流が行われている。



図 3-18 目白大学さいたま岩槻キャンパス



図 3-19 目白大学耳科学研究所クリニック

※1 SMAP 事業：目白大学と市内のモノづくり企業等が連携しながら看護支援を中心とした医療機器を開発するプロジェクト。(Saitama Mejiro Active Project)  
 ※2 SPIS 事業：学生の夢の実現のチャレンジを目的に学生の生活費の一部を大学がサポートし、地域との連携を推進する事業。(Students Project Incentive Scholarship)

## 課 題

### 地域資源の活用強化

地域協働を推進し、地域資源を十分に活用することにより、付加価値の創造が求められている。

### 大学との連携強化

本市との包括連携協定を基にさらなる連携強化が求められている。

### 新駅と将来のまちづくりの検討

今後の社会情勢などを注視し、その時の状況を考慮して新駅の設置と、段階的なまちづくりについて調査、検討することが求められている。

### 地域資源の魅力発信

地域資源を活用したイベントや農業体験等についてのPRを積極的に行い、地域の魅力を発信していく必要がある。

### 地域間の交流人口増に向けた取組

更なる交流人口の増加に向け、浦和美園駅周辺地区と岩槻駅周辺地区、そして2つの地区の中間に位置する中間駅周辺地区の3つの地区が連携し、交流人口増に向けた相乗効果を生み出すことが必要である。

### 東部地域全体の成長・発展に向けたまちづくりの推進

東部地域に属する3つの異なる地区が、それぞれ個性を持ったまちづくりに取り組み、各地区が相互に魅力を高め合うことで、東部地域全体の成長・発展を図ることが必要である。

## まちづくりの方向性

### 自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造

市街化調整区域等の規制があることから、現行の地域資源を最大限に活用するため新たな創造力をもって展開する。また、新駅設置にあわせたまちづくりの段階的整備に向けた調査、検討を行う。

## 戦略

### 地域戦略

緑豊かな田園風景や自然環境等の地域資源を活用しながら、新たなまちづくりの検討を進めるとともに、地域内外の連携・交流により地域の魅力と活力を高める。

### 鉄道戦略

地域の魅力を高め浦和美園～岩槻地域の連携と交流を促進させるとともに、今後の社会情勢等を考慮し、新駅設置と段階的なまちづくりを実現するため調査・研究を行う。

### 協働戦略

東部地域の成長・発展に向けて、市民、企業、行政、大学等が連携したまちづくりを推進する。

## まちの将来イメージ



図 3-20 中間駅周辺地区の将来イメージ

(出典) 地下鉄7号線延伸及び浦和美園～岩槻地域成長・発展に関する取組



## まちづくりの展開図



図 3-21 中間駅周辺地区、その他東部地域のまちづくりの展開図

## 4. 東部地域のまちづくり行程イメージ

**【東部地域のまちづくりのイメージの考え方】**

- 鉄道は、まちづくりを進める一手段であり、まちの装置でもある。
- コンパクトシティ+ネットワークのまちづくりを目指す。
- 自治体は、コンパクトシティのまちづくりを推進する。
- 鉄道事業者によるネットワークの構築を目指す。
- 自治体と鉄道事業者で連携によるまちづくりを推進する。

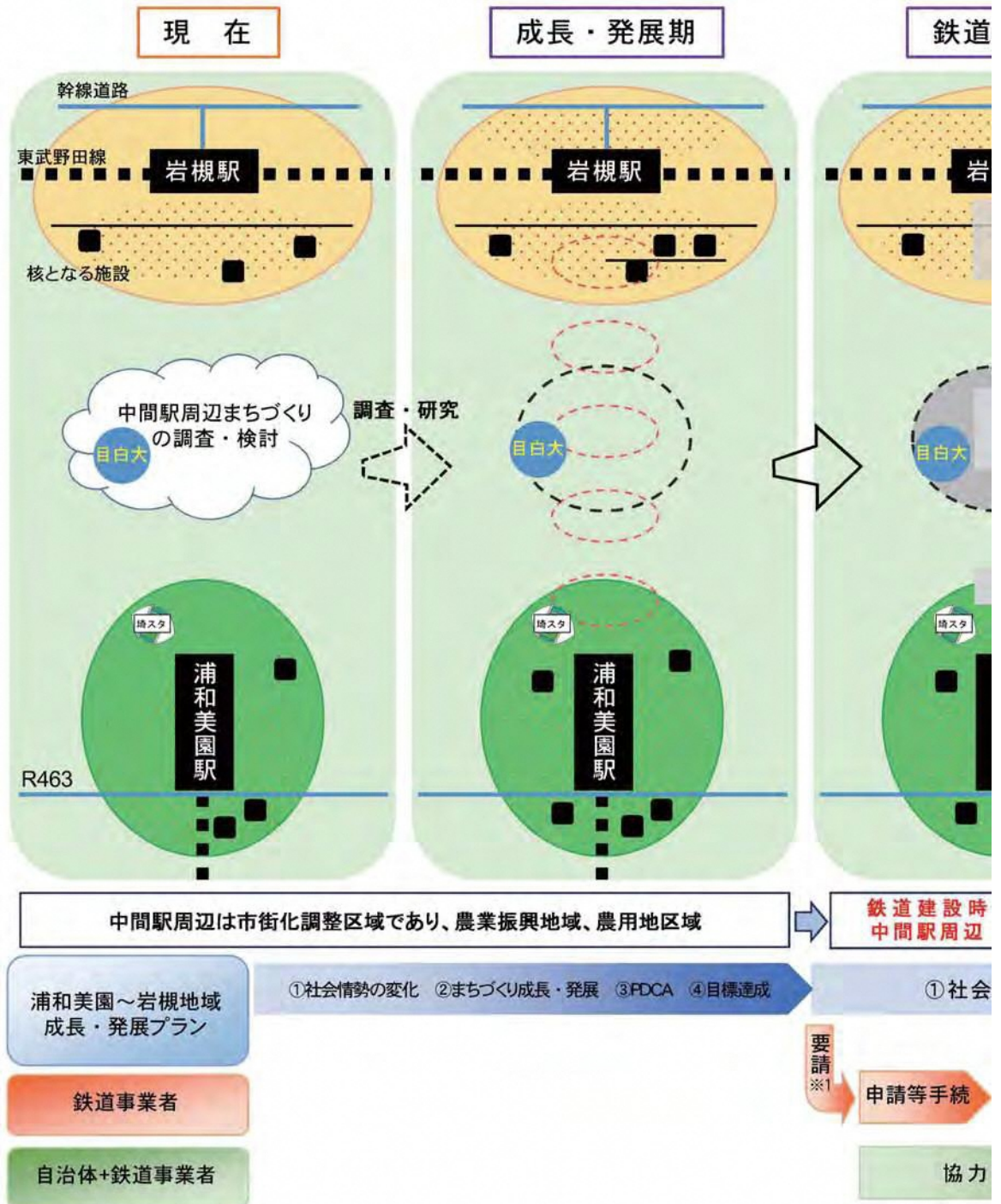
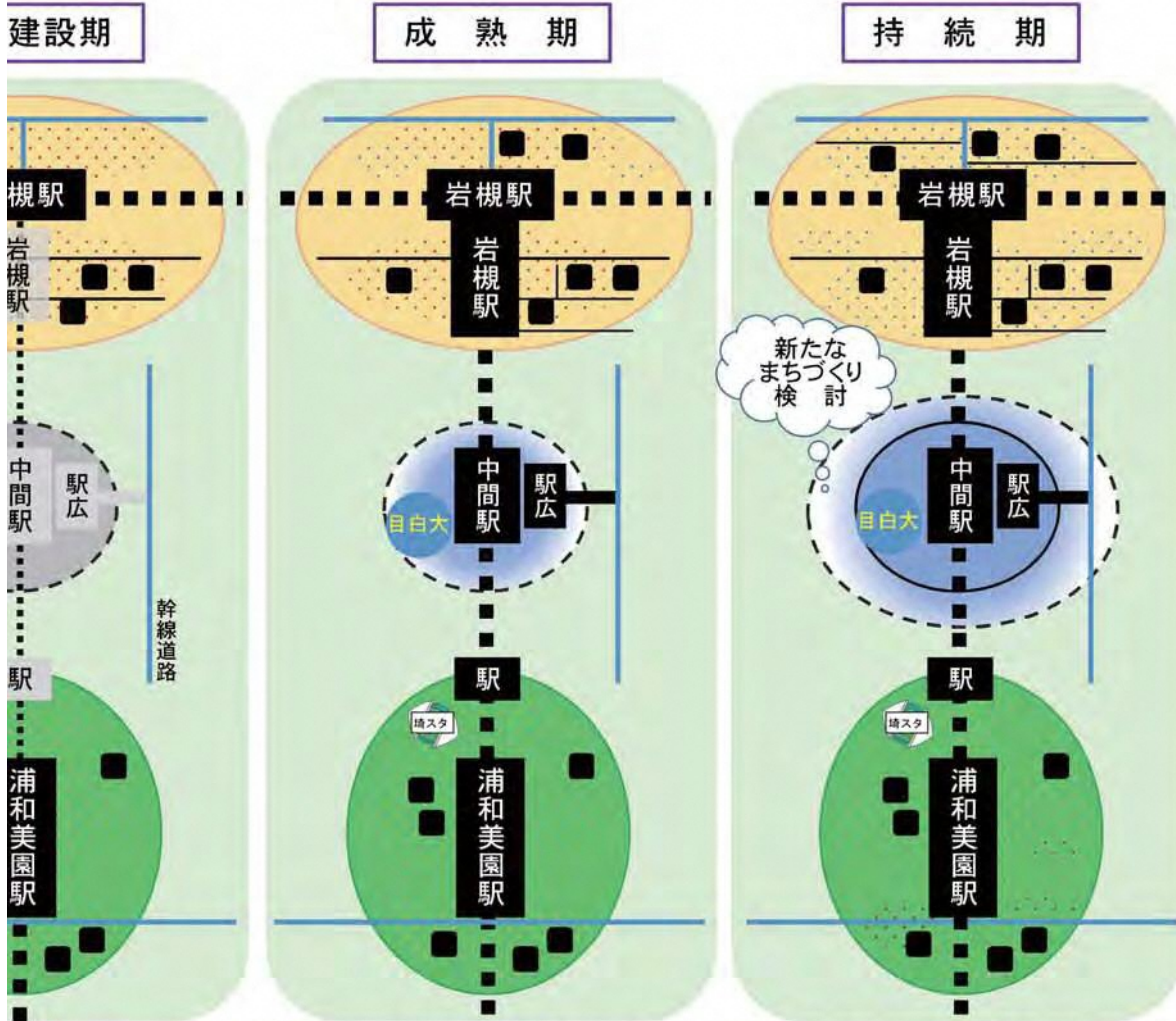


図 3-22 まちづくり

※ 1 要請：関係自治体の協議・合意のもと「都市鉄道等利便増進法」に基づき鉄道事業者に要請すること。  
 都市鉄道等利便増進法第 11 条第 1 項：地方公共団体は、鉄道事業者等に対して、速達性向上事業の実施の要請をすることができる。  
 第 2 項：要請を受けた者は、当該要請に基づき申請するか否かについて、遅滞なく、公表しなければならない。

【まちづくりの方向性】

- 浦和美園駅周辺地区：スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマに新しいまちの創造
- 岩槻駅周辺地区：城下町や人形のまちとしての歴史・文化が息づく、ふれあい・おもてなしのまちの創出
- 中間駅周辺地区：自然と共生し、地域資源を活用したまちの創造



にあわせのまちづくり → 中間駅周辺のまちづくりは、鉄道開業に合わせ、駅前広場や主要道路等を先行整備し、「街びらき」と同時期に一定の定住・交流人口もあることを想定

情勢の変化 ② 持続的まちづくり ③ PDCA ④ 新たなまちづくりの目標設定



の行程イメージ図

## 第4章 進行管理

### 1. マネジメント

#### (1) 進行管理と推進体制

庁内組織である「浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議」（以下「推進会議」という。）は、「各方策展開の方針決定」、「各方策の進行管理」及び「施策の効果検証」の役割を担う。

また、作業部会は実践方策に関する具体的な実施、進行管理及び課題の抽出・改善等を行うとともに、推進会議への進捗状況、課題の報告及び対応策の提案等を行う。

全庁的に連携して方策を推進するとともに、市民組織とも連携して推進する。

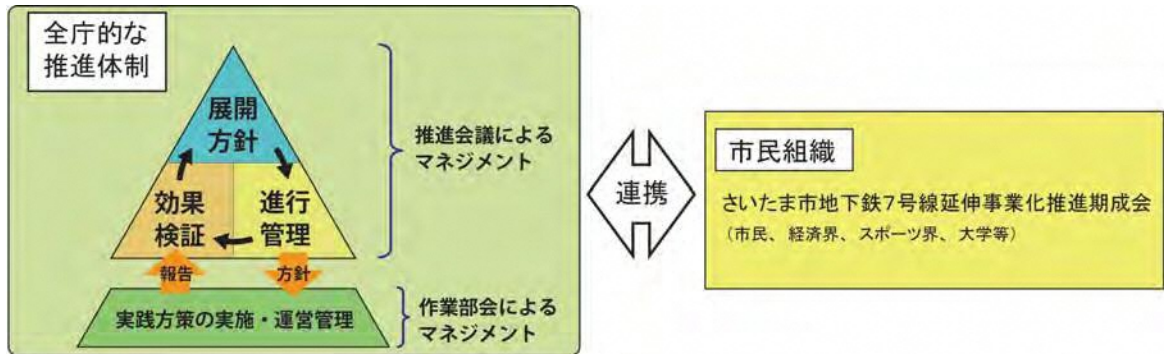


図 4-1 庁内推進体制と市民組織との関係図

#### (2) 行動計画の実行と進行管理

行動計画に位置づけた実践方策について、PDCA サイクルによる実施状況の点検、効果検証等を毎年度実施し、5年後を目安に行動計画の総点検、検証、改善を行う。

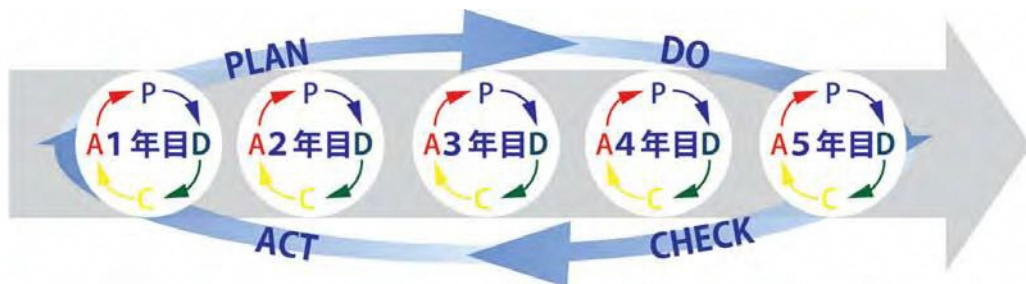


図 4-2 PDCA サイクルイメージ図

### 2. プランの見直し

#### (1) 基本計画

基本計画は、長期的な視点に立ち、東部地域の持続可能なまちづくりによって地域の成長・発展を図るものであり、計画の見直しについては、社会、経済状況の変化、国や県の関連政策の動向等の社会情勢を総合的に判断し、具体的な見直しの時期を決定するものとする。

#### (2) 行動計画

行動計画は、基本計画に基づき具体的な方策を展開する実践方策であり、計画の実効性を高めているものである。そのため、計画の見直しについては5年後を目安とする。

ただし、見直し時期は目安であり、毎年実施する効果検証の結果や状況の変化などを踏まえ、時期を決定する。



地域を育て、鉄道を育てる  
～ひと・まち・鉄道がつながるまちづくり～

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン 基本計画

---

平成24年9月 発行 発行：さいたま市  
平成30年10月 改定版発行 都市戦略本部 東部地域・鉄道戦略部  
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4  
TEL：048-829-1871（直通）  
FAX：048-829-1997  
E-mail：tobu-chiiki-tetsudo@city.saitama.lg.jp

---

この冊子は200部作成し、1部当たりの印刷経費は972円です。（平成30年度浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン改定業務のうち、印刷に要した費用です。）